

令和3年度 厚生労働科学研究費補助金(認知症政策研究事業)

併存疾患に注目した認知症重症化予防のための研究

分担研究報告書

「認知症者の併存疾患管理の手引き」作成のための文献検索・・・骨折

研究分担者 松原 全宏 東京大学医学部附属病院 救急科

研究要旨

認知症者は転倒し大腿骨頸部骨折を起こしやすく、入院治療により認知機能低下をきたすことが多く、エビデンスの構築が必要である。

A. 研究目的

認知症者は転倒し大腿骨頸部骨折を起こしやすく、入院・手術により認知機能低下・せん妄をきたすことをよく経験する。

今年度は、骨折と認知症についての関係を調べ、「認知症者の併存疾患管理の手引き」作成のための文献検索、国内外のガイドライン検索を行い、システムチェック・レビューを行い、そのエビデンスの取りまとめを試みた。

B. 研究方法

2012年1月1日より2021年11月15日までの研究論文について、PubMedを用いて検索した。

C. 研究結果

・大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン 2021改訂第3版にはせん妄の予防と治療についての記載がある。

・文献検索で“dementia” or “MCI” and “hip fracture”で1083件、RCTは8件。精読をすすめてゆく。

認知症の中でもレビー小体型認知症がアル

ツハイマー型認知症よりも転倒、骨折が多い。

D. 考察

骨折患者の40%以上に認知機能低下を合併しており、リハビリが思うようにすすまない原因となる。

E. 結論

大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドラインにせん妄対策についての記載はある。大腿骨骨折患者のレジストリを開始したところであり、骨折患者の認知症合併率やせん妄発生率、薬剤管理などについて前向きに登録し、検討してゆくことは重要である。

F. 健康危険情報

とくになし。

G. 研究発表

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む。)

1. 特許取得
2. 実用新案登録
3. その他 すべてなし。